

## 第1学年国語科学習指導案

日時：2024年6月15日（土）13:00～13:50

対象学年・学級：1年D組36名

会場：1年C組教室

授業者：阿部 由美

### 1. 単元名 短歌を読む～自分の感情を表す語彙～

#### 2. 単元の目標

- ①歌人の作品を読んで自分が感じたことや考えたことを言語化する。
- ②①を相互に共有することを通して自他の違いを認識し、「内省」する。
- ③日常を振り返り短歌を作る。
- ④活動を通じて語彙を獲得する。

#### 3. 指導観

##### i. 単元観と教材観

ナナロク社と木下龍也氏の企画で本校図書館宛に32冊の短歌集をいただいた。それを使って韻文の授業を行いたいと考えた。小説でも韻文でも古典でもコンテンツはなんであれ、他者の作品を読んで「内省」する姿勢を国語の授業を通して生徒に身につけさせたいと考えており、今回はこの短歌集を使って「自分に響いた短歌」を選び、短歌に詠みこまれた情景を想像し、作品の「良さ」を伝えあうことを前半1～3時の課題とした。後半4～6時は短歌集を読んで「表現」について気づいたことや、木下龍也『天才による凡人のための短歌教室』及び穂村弘『はじめての短歌』から「短歌の作り方」に言及する部分を抜粋して配布し、それを参考にしながら実際に短歌を創作し、よりよい表現について考えることを課題とした。この「よい」は芸術性に優れているということではなく、生徒間で他者の興味を引くことができる表現や、共感できる表現、音感がいいことなどを「よい」とし、中学校に入学して最初の韻文創作が「楽しい」ものになることを目的としている。

##### ii. 生徒観

1年D組の生徒は話し合い活動で場に応じて必要な意見を述べるができる生徒が多い。とはいえ、まだ入学から然程時間が経っていないことから、相互理解が充分とは言えず、教師及び級友からの評価を強く意識している生徒もいる。短歌集の中から自分に響いた短歌を一首選び、それを小グループで紹介する・解釈を述べる・良さを説明するという活動、ひとつの短歌について他者の解釈を聞くという活動、創作した作品を共有する活動を通して自他の感性の差異を体感しながら内省し、自己理解、他者理解への手がかりとさせ、自己表現を今よりさらに銜いなく行う姿勢を身につけさせたい。

#### 4. 単元指導計画（全7時）


時	学習内容・学習活動	指導上の留意点
第1時	寄贈していただいた短歌集を読み、「お気に入り短歌」を選ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短歌の定型他、既習事項の復習を行う。</li> <li>・読む時間を20分間とし、集中できる環境を整える。</li> <li>・与えられた歌集を読んでいる過程で、共有した作品を複数見つけた場合に付箋などを活用して2時以降に探し直さなくても済むようにする。</li> </ul>
第2時	「お気に入り短歌」についてロイロノートにまとめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロイロノートに書き込む必要事項を分けし、そこに記入する事柄を整理させる。</li> </ul>
第3時	「お気に入り短歌」発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表時間を1人3分、所感を述べ合う時間を2分とし、5分の活動を4ターン（グループ人数分）行うこととする。</li> </ul>
第4時	書籍の抜粋を使って短歌を作る方法を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木下龍也『天才による凡人のための短歌教室』及び穂村弘『はじめての短歌』を抜粋して配布する。配布されたプリントを読むだけの活動にならないように配慮する。</li> </ul>
第5時	日常生活を振り返って短歌を作る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推敲は後日行うこととして、叩き台としての31音を作らせる。</li> </ul>
第6時	作った短歌を推敲する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「推敲する」とはどのようなことかを第4時配布のプリントから考え、1首について言葉を吟味させる。</li> </ul>
第7時	「短歌」鑑賞会・単元のふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7時間の授業を振り返り、授業前と後とは短歌の印象についてどのように変化したかを問う。</li> <li>・第3時・第7時で自分の好みの短歌から自分にとって「お気に入り」になる短歌、言葉にはどのような共通点があるのかを考えさせる。</li> </ul>

#### 6. 授業の実際

第1時 5/24 (金)	<p>〈生徒の活動 鑑賞1時〉</p> <p>導入【小学校の学習の復習・短歌の定型などの確認】</p> <p>活動①【木下龍也さんに贈っていただいた短歌集をとにかく読む】</p> <p>活動②【短歌集を読む過程で気に入った歌に付箋を付ける】</p> <p>〈教師の準備・指示〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの人数に足りない分（5冊程度）は図書館にある短歌集で補った。選書の際には学校司書のご意見を伺った。1クラス35名乃至36名だが短歌集の中身が生徒の語彙</li> </ul>
--------------------	--

	<p>に比べて高尚過ぎたり、生徒の一般的な生活に比して過激過ぎたりする場合もあるので、人数分に余剰数冊の用意をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちに無作為に短歌集を渡し、それを「運命の短歌集」と名付け、手渡した本を20分間読ませる。</li> <li>読んでいく途中で「これはいいな」「素敵だな」「気持ちが悪いな」など、心が動いた作品に付箋を付ける。4クラスあり、A組は黄色・B組は赤・C組は緑・D組は青とクラスカラーが決まっているので付箋はクラスカラーの物を用意した。「心が動く」はポジティブな方向とは限らないので、ネガティブな心の動きを否定しないこととした。</li> <li>付箋を付けたままの本を回収した。</li> </ul>
<p>第2時 6/5 (水)</p>	<p>〈生徒の活動 鑑賞2時〉</p> <p>活動①【前時で付箋を付けた作品の中からお気に入りの短歌を1首選ぶ】</p> <p>活動②【ロイロノートにまとめる】</p> <p>〈教師の準備・指示〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時で使用した「運命の短歌集」を再び手渡し、複数の付箋がついているの中から1首を選ばせる。</li> <li>どこが良くて何が自分に響いたのかを伝え合うための資料を作成させるためにロイロノートに例を用意する。付箋は自分のものも他クラスのものもはがしてしまわないように注意を促す。</li> </ul> <p>〔ロイロノート記載事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>選んだ短歌そのもの (青)</li> <li>歌人名・歌集名 (青)</li> <li>歌から読み取った情景 (黄色)</li> <li>「お気に入り短歌」として選んだ決め手 (ピンク)</li> </ol> <p>実際に提出された生徒のロイロノート記事 2例</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>まるで図書館が囁いところ押し込められているような感じ。この本は割と最近に出版されていたことから考えたことは今はアプリで本が読めちゃうからわざわざ図書館に行かなくてもいいようになってしまった。だから図書館に行かない若者が減っていった海のような静かな場所に押し込まれて行ったのだと思った。図書館はスマホのgoogleで調べれば図鑑で調べより早く終わるから、小説よりも図鑑を詩に出しているのだと思った。ただ普通の小説がある図書館ではなくって何千もの図鑑があるから図鑑が多く置いてある図書館だと思った。</p> <p>まず、自分は読書が好きだから図書館という言葉に惹かれた。自分は図書館が沈むという表現が好きで、図書館が暗くなるとかそういう表現を使わずに、「沈んだのかい沿岸に」という表現を使っていて図書館が沿岸はまだそんなに暗くないけれど、図書館がそれくらい暗くなってきているのが表現されているのがとても好きです。とても面白いと思った。でも筆者が図書館も沈んだのかいと言っているから筆者は図書館でないものも沈んでいるのを見たのかもしれないと思った。そして特に何千という小説、ではなく図鑑といっているのがなんだが普通の表現じゃなくてとても好きです。</p> </div> <div style="width: 10%; text-align: center;"> <p>千種創一 『砂丘律』</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>友達と別れた時、ずと笑顔にいたわけではなく、いつかは真顔に戻る。それは5秒後だということ。その真顔に戻るためにも筋肉が使われているのだ。</p> <p>この短歌はあまり感動するようなものではないけれど「確かに」と思う内容だったのでとても印象に残りました。私も友達と「また明日」と別れた時には10秒以内には真顔になっているだろうなと思いました。また、啾啾の終わり方が「～真顔に戻る」ではなく「～真顔に戻るための筋肉」となっているのが筋肉のことを言っているのだとわかり面白かった。</p> </div> <div style="width: 10%; text-align: center;"> <p>榎野清一「ハッピーロンリーウオーソング」</p> </div> </div> <p>「じゃあまた」と笑顔で別れ五秒後に真顔に戻るための筋肉</p>

<p>第3時 6/7 (金)</p>	<p>〈生徒の活動 鑑賞3時〉</p> <p>活動①【前時で作った資料をもとに、「お気に入り短歌発表会」を行う】</p> <p>活動②【「お気に入り短歌発表会」の感想を相互に共有する】</p> <p>活動③【振り返り form に入力する】</p> <p>〈教師の準備・指示〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1人の持ち時間を3分として、ロイロノートに作成した資料をもとに発表を行う。この2分の間は発表者の言葉に耳を傾けるよう指示する。</li> <li>・1人の発表が終わったらその発表についての所感を述べ合う時間を2分取り、質疑応答や、歌の捉え方が違う場合はそれを共有することとする。</li> <li>・上記2点をグループ4人分(計20分程度)行うことを指示する。発表の順番は教師が一番近い左手側の人物から時計回りで順番にと伝える。</li> </ul> <p>〔formsの質問内容〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今日、他の人の「お気に入り短歌」の発表を聞いて思ったこと、考えたこと。</li> <li>2. 授業で「運命の短歌集」を手取るよりも前に「短歌集」と呼ばれる書籍を読んだことがあるかどうか。</li> <li>3. 読んだことがある場合はその書名。</li> <li>4. 今回「運命の短歌集」を読んだ率直な感想。</li> <li>5. 手許の「運命の短歌集」の『本のタイトル』と「歌人の名前」</li> <li>6. 「運命の短歌集」を読む前に持っていた「短歌」の印象と、読んだ後の「短歌」の印象がどう変化したのか。変化がない場合は「短歌」にどのような印象をもっているか。</li> </ol>
<p>第4時 6/12 (水)</p>	<p>〈生徒の活動 創作1時〉</p> <p>活動①【最近の出来事を振り返り、短歌に詠みこむ題材を探す】</p> <p>1人で考える時間・友達と相談する時間をそれぞれ取る。</p> <p>活動②【実際に短歌を作ってみる】</p> <p>活動③【木下龍也さんの※『短歌教室』の抜粋を読む】</p> <p>活動④【完成した「とりあえずの一首」を提出する】</p> <p style="text-align: right;">※『天才による凡人のための短歌教室』の略</p> <p>〈教師の準備・指示〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最近あった出来事、運動会や日常生活を振り返る時間を取り、書き込めるワークシートを用意する。</li> </ul> <p>〔ワークシート記載事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 最近、喜怒哀楽等感情が動かされたできごとを思い出してみる。</li> <li>2. 身近な人物の言動を思い出してみる。</li> <li>3. 身近な動物の様子を思い出してみる。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に『短歌教室』の抜粋部分をプリントとして配布する。</li> <li>・プリントで配布した『短歌教室』をモニターに映せるようにしておく。</li> </ul>

<p>第5時 6/13 (木)</p>	<p>〈生徒の活動 創作2時〉</p> <p>活動①【穂村弘さんの『はじめての短歌』の部分抜粋について考える】(図1)</p> <p>活動②【穂村弘さんの『はじめての短歌』の部分抜粋を読む】</p> <p>〈教師の準備・指示〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに図1を用意し、(B)を例題としてクラスで考え、他の3作品(A)・(C)・(D)についてこの歌がどのような情景を詠んだ歌なのかを考え、どのような単語をいれるのかについてグループで考えさせる。</li> <li>・『はじめての短歌』の短歌の創作について書かれている箇所をモニターに映せるようにしておく。</li> </ul> <div style="text-align: center;">  <p>1. 次の空欄に言葉を入れて短歌を完成させるとしたら、貴方は何を入れますか？</p> <p>私は日本狼アレルギーかもしれないが(A)</p> <p>田中 有芽子</p> <p>空き巣でも入ったかと思うほどわたしの部屋は(B)</p> <p>平岡 あみ</p> <p>大仏の前で並んで写真撮るわたしたちって(C)</p> <p>平岡 あみ</p> <p>(D) は老人ホームに行く日なり支度して待つ連れの車</p> <p>相澤 キヨ</p> <p>穂村弘『はじめての短歌』より</p> </div> <p style="text-align: center;">図1</p>
<p>第6時 6/15 (土) 本時</p>	<p>〈生徒の活動 創作3時〉</p> <p>活動①【木下・穂村両氏の2作品の部分抜粋を参考にしてクラスの代表者の作品を推敲する】</p> <p>活動②【活動①の例題を参考にしてグループ4人の作品についてそれぞれ推敲する】</p> <p>〈教師の準備・指示〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業手順を示したワークシートを準備する。</li> <li>・まず「どのフレーズを変えたいか」を考える作業の時間を取る。</li> <li>・1人の作品につき10分の時間を取る。</li> </ul>
<p>宿題</p>	<p>「取り敢えずの三十一音」と「推敲後の三十一音」をformsで提出する。</p>
<p>第7時 6/19 (水)</p>	<p>〈生徒の活動 まとめ〉</p> <p>活動①【前時で推敲した作品を鑑賞する】</p> <p>活動②【歌人の歌・友達の歌の中から1作品を選んだ活動を振り返り、自分がどういう短歌/言葉に惹かれるのか、自覚した傾向を考察する】</p> <p>〈教師の指示・準備〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週末に宿題としていた作品群を一覧にして配布できるようにする。</li> <li>・活動②に必要なformsの準備をする。</li> </ul>

6月14日（金）現在の成果と所感

第1時～第3時は「鑑賞」の授業と位置付けた。

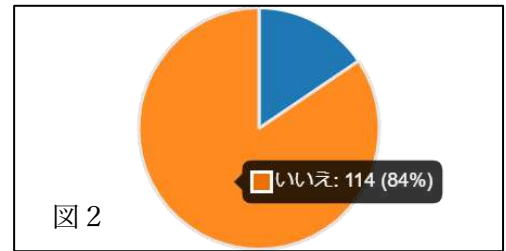
- ・小学校で短歌や俳句の授業を行ったが「短歌集」を手にしたことのない生徒が84%に及んだ。（図2）第1時で「短歌集」を初めて手に取り、その作品群を読み味わったということが既に大きな成果であるといえる。
- ・短歌について「かな」「や」「けり」を使う古風で難しいイメージを持っている生徒が多いことなどがformsによりアンケート結果で可視化できた。また、今回の「運命の1冊」に目を通したことによって、

【一般書籍と異なり（物理的な）余白が多いので通常の読書よりもページをめくる速度が早くておもしろかった】

【短歌は文字数の制限があるので想像の余地が沢山あって、ひとつの短歌でも4人で話してみると大筋同じ理解でも細部の想像が異なることがあっておもしろかった】

【こんなに身近なことを歌に詠みこんでいいんだということを知った】

等の感想が挙がってきた。これらのことから、自分の身の回りで起こったことや、見たものを31音にしたための「短歌」という表現が「卑俗ではいけないなにか高尚なもの」と捉えられているらしいことがうかがえた。また、この活動を通して子どもたちの「短歌」に対する抵抗感を僅かながら取り去ることができたと思われ、ひとつの成果を得たと言える。



第4～7時は「創作」の授業と位置付けた。

- ・創作の授業を行うにあたり、始めは歌人がどのように短歌を作っているのかを学んでから創作活動をさせようと考えていた。しかし、今、生徒の中にある語彙で等身大の「最初の作品」を作らせたらどのようなものが出来上がってくるのかを試したいという思いから、まず自分の力だけで「取り敢えずの三十一音」を作らせてから歌人による手引きを紹介するという手順を踏んだ。
- ・実際、授業中に創作をしながら【なんか違う。けど何がどう違うのかわからない。難しい】という声があがったので、（そのような声がなくとも提示する準備はしていたが）プロの歌人が短歌を作る時にどのようなことを心がけているのかの手引書として木下龍也『天才による凡人のための短歌教室』・穂村弘『はじめての短歌』の抜粋を配布していくつかの章段・事例を紹介した。
- ・その時点で一度生徒たちは（おそらく無自覚ながら）自分の短歌を自分なりに推敲しており、第6時の活動で友だちの意見を聞いてみるという活動を行うことで、作品のブラッシュアップを図りつつ、自分の中にはない語彙に出会い獲得するきっかけとしたかった。

## 7. 本時の展開

	学習内容	指導上の留意点
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの復習。</li> <li>・推敲に必要なことはどのようなことだと2人の歌人が書籍の中で言っていたかを確認。</li> </ul>	
展開① (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体への教材として自分の作品を提供してくれる生徒を募る。</li> <li>・その生徒が詠みたかった短歌の内容と、どの部分のフレーズをなぜ変えたいのかを説明させる。</li> <li>・生徒の言葉を聞いて、クラス全体で考え、意見を述べさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の短歌・意見を板書する。</li> </ul>
展開② (30分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展開①で学んだことを4人グループになってそれぞれの作品で行う。1人10分とする。(本日は3人分の展開)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の手順を整理して伝える。(ワークシートの配布)</li> </ul>
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展開②で得たグループメンバーからの言葉と自分の言葉とを比較し、自分の短歌で採用するフレーズを決める。</li> <li>・formsの送信を宿題とすることを伝える。</li> </ul>	

## 参考文献

- ・木下龍也『天才による凡人のための短歌教室』2020年 ナナロク社
- ・穂村 弘『はじめての短歌』2016年 河出書房新社

## 使用図書一覧 ナナロク社寄贈は★

あなたのための短歌集		木下龍也/著	ナナロク社	2021	
あなたのための短歌集		木下龍也/著	ナナロク社	2021	★
青蟬：歌集 新装版		吉川宏志/著	砂子屋書房	2023	★
あかるい花束		岡本真帆/著	ナナロク社	2024	★
石川くん	集英社文庫	柘野浩一/著	集英社	2007	
インロック		森口ぼるぼ/[著]	ナナロク社	2022	★
えーえんとくちから	ちくま文庫	笹井宏之/著	筑摩書房	2019	★
えーえんとくちから	ちくま文庫	笹井宏之/著	筑摩書房	2019	
音楽		岡野大嗣/著	ナナロク社	2021	★
オールアラウンドユー		木下龍也/[著]	ナナロク社	2022	★
踊れ始祖鳥		くろだたけし/[著]	ナナロク社	2023	★
気がする朝		伊藤紺/[著]	ナナロク社	2023	★
今日は誰にも愛されなかった		谷川俊太郎, 岡野大嗣, 木下龍也/[著]	ナナロク社	2019	★

きみを嫌いな奴はクズだよ：歌集	現代歌人シリーズ	木下龍也/著	書肆侃侃房	2016	
玄関の覗き穴から差ししてくる光のように 生まれたはずだ		木下龍也, 岡野大嗣/著	ナナロク社	2018	★
サラダ記念日	河出文庫	俵万智/著	河出書房新社	1989	★
砂丘律	ちくま文庫	千種創一/著	筑摩書房	2022	★
サワーマッシュ		谷川由里子/著	左右社	2021	★
幸せな日々		多賀盛剛/[著]	ナナロク社	2023	★
水上バス浅草行き		岡本真帆/[著]	ナナロク社	2022	★
すべてのものは優しさをもつ		島楓果/[著]	ナナロク社	2022	★
たんぼるぼる	短歌研究文庫	雪舟えま/著	短歌研究社	2022	★
テノヒラタンカ：ぎゅっと大切な言葉を、あなたの手のひらへ		Rai/[監修]；天野慶, 天道なお, 脇川飛鳥/[著]	オフィスサンサーラ；太田出版	2002	
ともだちは実はひとりだけなんです	Billiken books	平岡あみ/短歌	ビリケン出版	2011	
ドラえもん短歌	小学館文庫	柘野浩一/選	小学館	2011	
uta0001.txt：中澤系歌集		中澤系/著	皓星社	2018	★
春原さんのリコーダー	ちくま文庫	東直子/著	筑摩書房	2019	★
ハッピーロンリーウォーリーソング	角川文庫	柘野浩一/[著]	角川書店	2001	
花は泡、そこにたって会いたいよ	新鋭短歌	初谷むい/著	書肆侃侃房	2018	★
ハッピーアイスクリーム：加藤千恵処女短歌集：17歳って、これだけじゃ無理。	マーブルブックス	加藤千恵/著	マーブルトロン；中央公論新社	2001	
パン屋のパンセ：歌集	かばん BOOKS	杉崎恒夫/著	六花書林；開発社	2010	★
百年後 嵐のように恋がしたいとあなたは言い 実際嵐になった すべてがこわれ わたしたちはそれを見た		野村日魚子/著	ナナロク社	2022	★
ビットとデシベル：歌集	現代歌人シリーズ	フラワーしげる/著	書肆侃侃房	2015	★
プーさんの鼻	文春文庫	俵万智/著	文藝春秋	2008	
毎日のように手紙は来るけれどあなた以外の人からである：柘野浩一全短歌集		柘野浩一/著	左右社	2022	★
野球短歌：さっきまで世界が全滅したことを私はぜんぜん知らなかった		池松舞/[著]	ナナロク社	2023	★
やがて秋茄子へと到る		堂園昌彦/著	港の人	2013	★
夜を着こなせたなら		山階基	短歌研究社	2023	★
4		青松輝/[著]	ナナロク社	2023	★
ラインマーカーズ：The Best of Homura Hiroshi	小学館文庫	穂村弘/著	小学館	2022	★
老人ホームで死ぬほどモテたい	新鋭短歌	上坂あゆ美/著	書肆侃侃房	2022	★